令和8年度着手

県営　二艘入川地区　土地改良事業計画書

（たん水防除事業）

愛　知　県

目次

第1章　目　　的 …… 1
第2章　地域及び地積 …… 1
　第1節　地域 …… 1
　第2節　地積 …… 1
第3章　現　　況 …… 2
　第1節　気象 …… 2
　　1　一般気象 …… 2
　　2　特殊気象 …… 2
　第2節　土地状況 …… 3
　　1　地形、土壌及び浸食の程度 …… 3
　　2　土地分類 …… 3
　　3　土地利用の状況 …… 4
　　4　土地所有の状況 …… 4
　第3節　水利状況 …… 5
　　1　用水状況 …… 5
　　2　排水状況 …… 5
　　3　河川状況 …… 6
　第4節　道路概況 …… 6
　第5節　地域農業の概況 …… 7
　　1　産業別就業人口 …… 7
　　2　経営耕地広狭別農業経営体数 …… 7
　　3　主要家畜頭数 …… 8
　　4　主要作物作付状況 …… 8
　　5　農業の動向 …… 9
　第6節　地域環境の概況 …… 10
第4章　一般計画 …… 11
　第1節　事業計画の要旨 …… 11
　　1　要　旨 …… 11
　　2　事業別面積 …… 11
　第2節　営農計画及び土地利用計画 …… 11
　　1　営農計画の概要 …… 11
　　2　土地利用区分 …… 11
　　3　作付け方式 …… 11
　　4　生産計画 …… 11
　　5　労働改善計画 …… 12
　　6　級地別土地利用区分 …… 12
　　7　土地配分計画 …… 12
　第3節　用水計画 …… 12
　第4節　排水計画 …… 12
　　1　計画基準雨量 …… 12
　　2　計画排水方式 …… 12
　　3　計画排水系統 …… 12
　　4　計画排水量 …… 12
　　5　排水対策 …… 13
　　6　湛水検討 …… 13
　第5節　道路計画 …… 14
　第6節　農用地造成計画 …… 14
　第7節　洪水調整計画 …… 14
　第8節　干拓計画 …… 14
　第9節　農用地整備計画 …… 14
　第10節　老朽ため池改修計画 …… 14
第5章　主要工事計画 …… 14
　第1節　用水施設 …… 14
　第2節　排水施設 …… 14
　　1　排水水門 …… 14
　　2　排水機 …… 14
　　3　排水路 …… 14

4　その他排水施設 …… 15
第3節　道路及び索道 …… 15
第4節　農用地造成 …… 15
第5節　洪水調整施設 …… 15
第6節　干拓施設 …… 15
第7節　農用地整備施設 …… 15
第8節　老朽ため池改修施設 …… 15
第6章　附帯工事計画 …… 15
第7章　工事の着手及び完了の予定時期 …… 15
第8章　管理の要領 …… 16
第9章　環境との調和への配慮 …… 16
第10章　換地計画の概要 …… 16
第11章　事業費の総額及び内訳 …… 16
第12章　効　用 …… 17
第13章　関連する事業 …… 18
第14章　現況・計画平面図 …… 18
1　現況平面図 …… 19
2　計画平面図 …… 20
3　土地利用計画図 …… 21
4　主要構造図 …… 22

第1章　　目　的

本地区は、安城市の南西部および碧南市の東部に位置し、二級河川高浜川水系油ヶ淵に排水する流域面積106.3haの低平水田地帯である。地区内には市道和泉根崎１号線をはじめとする幹線道路がとおっており都市部とのつながりが深く、都市近郊型近代農業の先進的役割を果たしつつある地域である。

本地区は、県営高潮対策事業により、昭和56年度に二艘入樋門が整備されるとともに、団体営土地改良総合整備事業野銭地区(昭和57年度完了)により地区内の用排水路が整備され、排水対策が確立された。しかし、その後の地区内開発の進展に伴う流出量の増加に加え、排水先である高浜川の流域開発により油ヶ淵の水位が上昇し、自然排水が困難となる時間が増加した。この結果、地区内の排水機能が低下し、農地・農業用施設等に年々湛水被害が顕在化してきている。

直近10年間では湛水被害がほぼ毎年発生しており、令和6年の台風第10号接近時にはポンプを設置し、応急排水を実施した。

よって、本地区の排水機場を新設することで、湛水被害を未然に防ぎ、農業経営と民生の安定を図ることを目的とする。

第2章　地域及び地積

第1節　地　域

（第1表）

事　　業　　名	地　　域
たん水防除事業	安城市、碧南市

第2節　地　積

（令和7年11月現在）(第2表)

事　業　名	現況地目 / 市町村名	田	畑	その他	計	備考
たん水防除事業	安　城　市	34.9	0.3	3.5	38.7	安城市及び碧南市都市計画図より測定
	碧　南　市	4.0	0.0	0.5	4.5	
	計	38.9	0.3	4.0	43.2	

第3章　現　況

第1節　気象

1.一般気象

（第3表-1）

観測所名	一色観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備考
観測期間	平成3年～令和2年	4月～　9月	10月～3月		
平均気温(℃)		観測なし	観測なし	観測なし	
降水量	平　均(mm)	913.0	543.0	1,459.0	
	基準年(mm)	－	－	－	
降水日数	平　均(日)	59	42	100	
	基準年(日)	－	－	－	
根　雪　期　間	観測なし				
無　霜　期　間	観測なし				観測値があるのは名古屋地方気象台のみ
最　多　風　向	観測なし	最大風速 (風　向)	観測なし		

2.特殊気象

（第3表-2）

観測所名 一色観測所	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
観測期間 昭和51.1.1～ 令和6.12.31	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量 (mm)	268.0	R5.6.2	1/78	248.0	R1.10.12	1/49	246.0	H13.9.10	1/47	216.5	H29.10.22	1/24	172.0	S51.9.9	1/8	5位と同じ 連続干天日数 H11.12.7～ H12.1.6 H21.8.12～ H21.9.11
最大時間雨量 (mm)	69.0	H24.9.11	1/40	64.5	R4.7.27	1/26	64.5	H30.9.4	1/26	63.5	R4.7.26	1/24	60.5	R5.9.11	1/18	
最大4時間雨量 (mm)	116.0	H30.9.4 20:00～	1/57	106.0	R5.6.2 10:00～	1/24	99.0	H9.9.14 22:00～	1/14	98.0	H3.9.19 3:00～	1/13	94.0	H13.8.22 3:00～	1/10	
最大連続雨量 (mm)	427.5	H29.10.13 ～H29.10.23	1/43	360.0	H3.9.12 ～H3.9.19	1/17	340.0	H16.10.2 ～H16.10.10	1/13	306.0	H2.9.14 ～H2.9.20	1/8	305.0	S51.9.7 ～S51.9.14	1/8	
最大連続 干天日数(日)	40	S61.1.5 ～S61.2.13	1/44	39	H9.10.5 ～H9.11.12	1/37	37	H10.12.9 ～H11.1.14	1/27	32	R6.7.18 ～R6.8.18	1/12	31	H7.11.24 ～H7.12.24	1/10	

第2節　土地状況

1.地形、土壌及び浸食の程度　　（令和7年11月現在）（第4表-1-1）

事業名	地目	田						畑・その他								受益地標高(m)		備考
	傾斜区分	1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 10°	10° ～ 15°	小計						
たん水防除事業	面積(ha)	38.9	－	－	－	－	38.9	4.3	－	－	－	－	－	－	4.3	0.63	-0.20	
	比率(%)	100	－	－	－	－	100	100	－	－	－	－	－	－	100			

（第4表-1-2）

土壌統（区）名 ＼ 項目	土壌統（区）区分一覧表										面積(ha)		備考
	土壌断面								堆積様式	母材	事業名		
	色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土性			泥炭層黒泥層及びグライ層			たん水防除事業	計	
					表土	下層土							
					一層	二層	三層						
米津統	青灰色	なし	なし	糸根状、管状有～含	粘質	粘質	―	作土または作土直下からグライ層	水積	非固結水成岩	38.9	38.9	水田
鷲塚統	灰/青灰色	なし	なし	糸根状含	強粘質	強粘質	―	80cm以上の心土からグライ層	水積	非固結水成岩			
開正統	灰/青灰色	なし	なし	糸根状含	壌質	壌質	―	80cm以上の心土からグライ層	水積	非固結水成岩			
奥田統	黄灰色	なし	なし	あり	砂質	砂質	―	―	水積	非固結水成岩	0.3	0.3	畑
計	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	39.2	39.2	

2.土地分類　　該当なし

3. 土地利用の状況

（令和7年11月現在）（第4表-3）

事業名	土地利用別 / 市町村名	耕地						原野	山林	採草放牧地	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
たん水防除事業	安城市	34.9	0.3	—	—	—	—	—	—	—	3.5	38.7	
	碧南市	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	4.5	

4. 土地所有の状況

（令和7年11月現在）（第4表-4）

事業名	区分 / 所有別	個人有地等	国有地	県有地	市有地	計	備考
たん水防除事業	面積(ha)	39.2	4.0			43.2	
	受益者数(人)	348	—			348	
	筆数(筆)	—	—			—	
	権利関係	—	—			—	
	備考(関係戸数)	348	—			348	

第3節　水利状況

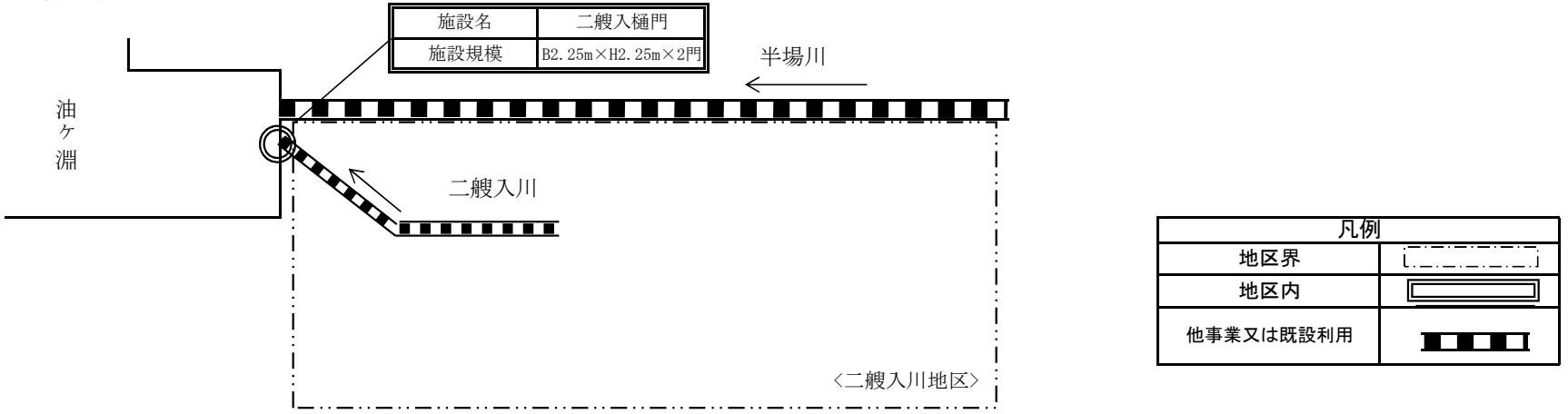
1. 用水状況

本地区は矢作川用水の受益地内であり、地区内のほ場整備事業によってパイプライン化された施設を経て、末端ほ場へかんがいしている。

2. 排水状況

降雨流出水は、二艘入樋門により地区内から二級河川高浜川水系油ヶ淵へ自然排水している。しかし、近年では排水状況が悪化して、湛水被害が顕在化している。

(1)排水系統



(2)排水施設

(ア)排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目／施設名		排水面積 500ha以上 箇所	500ha以上 ha	100～500ha 箇所	100～500ha ha	100ha未満 箇所	100ha未満 ha	計 箇所	計 ha	排水慣行 (m^3/S)	現況排水能力 (m^3/s)	備考
たん水防除事業	自然	排水路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水　門	—	—	1	106.3	—	—	1	106.3	—	—	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計		—	—	1	106.3	—	—	1	106.3	—	—	

(イ)改修を要する施設一覧表　　(第5表-5)

事業名	施設名＼項目		施設名又は箇所数	受益面積(ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
たん水防除事業	自然	排水路	—	—	—	—	—	—	
		水門	1	43.2	—	B2.25m×H2.25m×2門	S57	地区内開発による流出量の増加、および排水本川流域の開発に伴う外水位の上昇により自然排水が困難となったことで排水能力が不足しているため、排水機場を新設し、強制排水体制へ移行する必要がある。	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	—	新設
		水門及び排水機	—	—	—	—	—		
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—		
	計		1	43.2	—	—	—	—	

(3)排水に関する被害状況　　(第5表-6)

事業名	項目＼施設名	排水面積(ha)	降水量(mm/3日)		湛水状況 湛水深(m)	湛水時間(hr)	湛水面積(ha)	湛水量(千m3)	乾湿状況(ha) 田 乾	田 湿	畑 乾	畑 湿	その他 乾	その他 湿	平均減産量(t) 作物名	減産量(t)	備考
たん水防除事業	二艘入樋門	106.3	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		1/20確率
			基準年	297	0.83	27.6	43.2	158.0	—	38.9	—	0.3	—	4.0	—		

3.河川状況　　該当なし

第4節　道路概況

地区内には市道和泉根崎１号線が通っており都市部とのつながりが深く、都市近郊型近代農業の先進的役割を果たしつつある地域である。

第5節　地域農業の概況

1. 産業別就業人口

（第7表-1）

項目／市町村名	総数（人）	農業（人）	林業（人）	漁業（人）	鉱業（人）	建設業（人）	製造業（人）	電気ガス熱供給水道業（人）	運輸通信業（人）	卸売小売業飲食店（人）	金融保険業（人）	不動産業（人）	サービス業（人）	公務（人）	その他（人）	備考
安城市	89,423	1,938	4	6	29	4,105	32,727	248	5,660	10,857	1,351	1,191	26,767	1,933	2,607	
碧南市	37,836	1,269	－	117	5	2,162	15,630	175	1,920	4,430	433	310	9,733	628	1,024	
計	127,259	3,207	4	123	34	6,267	48,357	423	7,580	15,287	1,784	1,501	36,500	2,561	3,631	
比率(%)	100.0	2.5	0.0	0.1	0.0	4.9	38.0	0.3	6.0	12.0	1.4	1.2	28.7	2.0	2.9	

（出典：令和2年国勢調査）

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

（第7表-2）

区分／市町村名	農業経営体数（経営体）	経営耕地広狭別農業経営体数（経営体）										1経営体当り平均農用地面積(ha)					備考
		0.3 ha未満	0.3～0.5 ha	0.5～1.0 ha	1.0～1.5 ha	1.5～2.0 ha	2.0～3.0 ha	3.0～5.0 ha	5.0～10.0 ha	10.0～20.0 ha	20.0 ha以上	田	畑	樹園地	草地		
安城市	822	103	161	269	121	62	32	7	7	13	47	4.9	0.3	0.4	0.5		
碧南市	417	39	82	128	61	27	28	29	15	1	7	1.4	1.2	0.2	－		
計	1,239	142	243	397	182	89	60	36	22	14	54	6.3	1.5	0.6	0.5		
比率(%)	100	11.5	19.6	32.0	14.7	7.2	4.8	2.9	1.8	1.1	4.4	70.6	17.3	6.4	5.6		

（出典：2020年農林業センサス）

3. 主要家畜頭数

（第7表-3）

項目 / 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（頭）	経営体数（経営体）	数量（100羽）	経営体数（経営体）	
安城市	163	3	467	5	X	2	X	1	「-」は事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
碧南市	—	—	—	—	6,560	4	—	—	
計	163	3	467	5	6,560	6	X	1	
100経営体当り数量（頭、100羽）	5,433		9,340		109,333		—		
飼養経営体数割合(%)	0.2		0.4		0.5				飼養経営体数割合は農業経営体数のうち各項目の経営体数が占める割合。

（出典：2020年農林業センサス）

4. 主要作物作付状況

（第7表-4）

市町村名	安城市	碧南市	計	作付割合（%）	備考
総耕地面積(ha)	4,198	860	5,058		
区分 / 作物名	作付面積（ha）	作付面積（ha）	作付面積（ha）		
水稲	X	203	X	X	作付け面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積である。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
麦類	1,129	74	1,203	24	
雑穀	X	X	X	X	
いも類	X	9	X	X	
豆類	1,010	65	1,075	21	
工芸作物	X	X	X	X	
野菜類	X	456	X	X	
果樹類	62	X	X	X	
花き類・花木	X	39	X	X	
その他の作物	40	X	X	X	
計	4,198	860	5,058	100	

（出典：2020年農林業センサス）

5.農業の動向

（第7表-5）

項目 / 区分	農業経営体	B	A	土地	B	A	主要作物	B	A	主要家畜	B	A	地域指定等	備考
変化の状況（C年を100とする指数）	農業経営体	79	58	耕　地	93	92	水　稲	99	103	乳用牛	102	90	農振地域 昭和45年9月 農用地計画 昭和45年11月	A:令和2年 （ 2020 ） B:平成27年 （ 2015 ） C:平成22年 （ 2010 ）
	個人経営体	79	58	田	94	93	麦　類	X	X	肉用牛	X	76		
	団体経営体（法人）数	87	120	畑	93	95	野菜類	X	X	豚	X	X		
	団体経営体（非法人）数	0	0				花き類・花木	X	X	家きん	X	X		
変化の理由	本地域は、農業者の高齢化と後継者不足および都市化の影響で、農業経営体数及び個人経営体数とも減少傾向にある。団体経営体(法人)数については一時減少したが増加傾向にある。これは、離農する個人経営体の農地を集約・継承するため、集落営農組織の法人化や農業参入法人の設立が行政・農協の支援のもとで推進されてきたためと考えられる。			農業経営体の減少および都市化に伴い、耕地全体および田はゆるやかな減少傾向にある。畑についてはゆるやかに増減を繰り返しており、ほぼ横ばいの状況である。これは、都市化による宅地等への転用による減少と、田から畑への転換による増加が拮抗しているためと考えられる。			耕地面積はゆるやかな減少傾向にあるものの、水稲は生産量を維持している。麦類、野菜類、花き類・花木は統計数値が公表されていないため、動向の把握が困難である。			乳用牛、肉用牛については、牛肉輸入の自由化の進展による市場環境の変化等により、家畜農家が減少している。家きん、豚はデータが公表されていないため、傾向が不明である。				「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの

注）A：現在（最近時点調査の農林業センサス）・・2020年(R2)
B：Aの直前の行われた農林業センサス・・・・2015年(H27)
C：Bの直前の行われた農林業センサス・・・・2010年(H22)

第6節　地域環境の概況

安城市および碧南市地内における環境への配慮項目は次のとおりである。

1. 特に配慮すべき生物環境

クロマツ、シイ、チガヤなどの植生が見られるとともに、エサキアメンボ、ツマグロキチョウなども生息している。また、植生自然度の観点からは、榎前のクロガネモチと、西方寺のクロマツがある。

動物の生息環境としては、魚類（ネコギギ、メダカ、オヤニラミ等）および鳥類（アオサギ、カワウ等）の生息が確認されている。山地の森林にはサシバ、アオゲラ、キビタキ、アオバズク、などの鳥類が生息し、魚類は、ニホンウナギ、ドジョウ、ミナミメダカ、オオヨシノボリなどが生息している。

2. 特に配慮すべき生物以外のもの(景観・文化財他)

(1) 安城市

明治以降、農業の先進地として「日本デンマーク」と呼ばれるなど発展してきた。近年良好な植物群落は減少傾向にあるものの、クロマツ、シイなどの社寺林が分布している。市内に文化財に指定された多数の社寺と古墳、史跡があり、多くの地域資源を有している。

(2) 碧南市

古くから干拓による農地造成が進められており、干拓農地の開発や醸造、窯業、鋳物などの伝統的産業により発展してきた。自然景観としては海岸線や油ヶ淵周辺、矢作川、市街地周辺の農地があり、市街地景観としては古くから住宅地、公園・緑地、工業地帯、地場産業、寺社などがある。

第4章　一般計画

第1節　事業計画の要旨

1. 要旨

本地区は、県営高潮対策事業により、昭和56年度に二艘入樋門が整備されるとともに、団体営土地改良総合整備事業野銭地区(昭和57年度完了)により地区内の用排水路が整備され、排水対策が確立された。しかし、その後の地区内開発の進展に伴う流出量の増加に加え、排水先である高浜川の流域開発により油ヶ淵の水位が上昇し、自然排水が困難となる時間が増加した。この結果、地区内の排水機能が低下し、農地・農業用施設等に年々湛水被害が顕在化してきている。

直近10年間では湛水被害がほぼ毎年発生しており、令和6年の台風第10号接近時にはポンプを設置し、応急排水を実施した。

よって、本地区の排水機場を新設することで、湛水被害を未然に防ぎ、農業経営と民生の安定を図ることを目的とする。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 / 土地利用区分	たん水防除事業					計 (ha)	
	水田	普通畑	牧草地	果樹園	その他		
事業目的	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
湛水被害防止	38.9	0.3	－	－	4.0	43.2	

第2節　営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

湛水被害を防止し、農業経営の安定を期す。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分 / 区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
たん水防除事業	現況	38.9	0.3	—	—	—	—	39.2	—	—	4.0	43.2	
	計画	38.9	0.3	—	—	—	—	39.2	—	—	4.0	43.2	

3. 作付け方式　　該当なし

4. 生産計画　　該当なし

5. 労働改善計画　　該当なし

6. 級地別土地利用区分　　該当なし

7. 土地配分計画　　該当なし

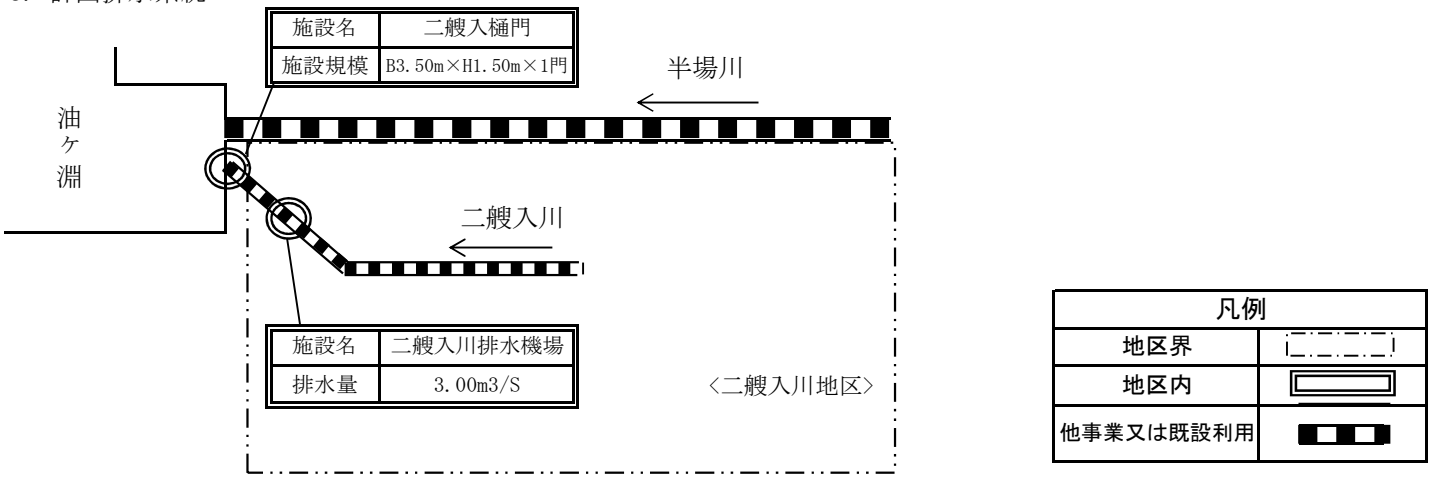
第3節　用水計画　　該当なし

第4節　排水計画

1. 計画基準雨量　　3日連続雨量　297㎜(1/20確率)

2. 計画排水方式　　排水方式……機械排水
許容湛水……湛水深30cm以上の湛水時間が24時間以内(旧況湛水時間以内)

3. 計画排水系統



4. 計画排水量　　(第11表－1)

項目 / 排水系統名	受益面積(ha) 事業名			流域面積 (km²)		基準雨量	降雨による直接単位流出量 (m³/s/km²)		基底流出量 (m³/s/km²)		全排水量(m³/s) 山地	全排水量(m³/s) 平地		単位排水量 (m³/s/km²)		備考
	たん水防除事業	—	計	山地	平地	(mm)	山地	平地	山地	平地		自然排水	機械排水	山地	平地	
油ヶ淵	43.2	—	43.2	—	1.063	297	—	4.4	—	0.10	—	—	3.00	—	2.82	

5. 排水対策

(1)排水水門

項目／名称	流域面積 (km²)	受益面積(ha)			計画排水量		排水本川			備考
		事業名			排水量 (m^3/S)	地区内湛水深(m)	名称	計画洪水量 (m^3/S)	計画高水位 (m)	
		たん水防除	—	計						
二艘入樋門	1.063	43.2	—	43.2	—	0.4	二級河川 高浜川水系 油ヶ淵	260	2.00	

(2)排水機　　(第11表－3)

項目／名称	流域面積 (km^2)	受益面積(ha)			計画排水量		排水機				備考
		事業名			排水量 (m^3/s)	地区内湛水深(m)	実揚程 (m)	排水量 (m^3/s)	台数 (台)	全排水量 (m^3/s)	
		たん水防除	—	計							
二艘入川 排水機場	1.063	43.2	—	43.2	3.00	0.4	-	1.50	2	3.00	

(3)排水路　　該当なし

(4)その他　　該当なし

6. 湛水検討

湛水検討を行なった結果は次表のとおりである。

区　分	基準田面標高 (m)	許容湛水深 (m)	許容湛水深以上湛水時間 (hr)	最大湛水深 (m)	最大湛水面積 (ha)	備　　考
現況1/20確率	-0.20	0.30	27.6	0.83	43.2	
計画1/20確率	-0.20	0.30	20.4	0.55	27.8	
計画1/10確率	-0.10	0.05	0.0	0.03	2.5	転作最低田面h=-0.10
修正1/20確率	-0.20	0.30	8.4	0.39	16.1	

第5節　道路計画　　該当なし

第6節　農用地造成計画　　該当なし

第7節　洪水調整計画　　該当なし

第8節　干拓計画　　該当なし

第9節　農用地整備計画　　該当なし

第10節　老朽ため池改修計画　　該当なし

第5章　主要工事計画

第1節　用水施設　　該当なし

第2節　排水施設

1．排水水門　　(第18表－1)

項目／名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m^3/s)	備考
二艘入樋門	安城市	ボックスカルバート ローラーゲート	3.50×1.50×1門	-0.20	-0.29	0.628	

2．排水機　　(第18表－2)

項目／名称	位置	排水量 (m^3/s)	揚程(m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	出力 (kW)	台数 (台)	
二艘入川 排水機場	安城市	1.50	3.90	2.80	横軸斜流	φ800	1	モーター	75	1	
		1.50	3.90	2.80	横軸斜流	φ800	1	エンジン	71	1	
計		3.00					2			2	

3．排水路　　該当なし

4. その他排水施設　　該当なし

第3節　道路及び索道　　該当なし

第4節　農用地造成　　該当なし

第5節　洪水調整施設　　該当なし

第6節　干拓施設　　該当なし

第7節　農用地整備施設　　該当なし

第8節　老朽ため池改修施設　　該当なし

第6章　附帯工事計画

用地買収および補償費

用地買収…排水機場用地　2700㎡(地目：田)

補償費…なし

第7章　工事の着手及び完了の予定時期

1. 工期

着　　手　　令和8年度

完了予定　　令和14年度(予定)

2. 工事の年度割予定

年度／工種	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	備考
たん水防除事業								

第8章　管理の要領

県営たん水防除事業　二艘入川地区により造成された土地改良施設は安城市が管理する。

第9章　環境との調和への配慮

1. 配慮の対象

本地区は、安城市の南部から碧南市の東部にまたがる油ヶ淵と矢作川の間に広がる低平地の水田地帯である。また、安城市および碧南市田園環境整備マスタープランにおいては環境配慮区域となっており、機場周辺に生息する魚類を対象とする。

2. 配慮の考え方

地区周辺の生物の生息環境の障害にならないように、施工期間中は、濁水流出防止対策及び魚類等を工事区域外へ一時的に移動させることにより、影響を極力軽減する。

第10章　換地計画の概要　　該当なし

第11章　事業費の総額及び内訳　　（第26表）

区分＼事業名		たん水防除事業　（千円）	備　考
事業費 ※1)		2,658,000	
事務的経費 ※2)		164,900	
計		2,822,900	
（関連事業）	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	

令和7年度単価。（ただし、物価変動により将来変動することがある。）

※1）事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2）事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第12章　効用

（第27表）

事業名	項目／区分	年総効果(便益)額(千円)	年総増加農業所得額(千円)	備考
たん水防除事業	作物生産効果	14,874	14,800	
	維持管理費節減効果	△ 2,549	△ 2,520	
	災害防止効果(農業関係資産)	192,053	120,715	
	国産農産物安定供給効果	3,540	－	
	計	207,918	132,995	令和7年度単価

（参考）

① 当 該 事 業 費: 2,086,819 千円
② そ の 他 費 用: 475,482 千円
③ 総費用(現在価値化): 2,562,301 千円
④ 年 償 還 額 : － 千円/年
④'うち機能向上分 : － 千円/年
⑤ 年総効果（便益）額: 207,918 千円/年
⑥ 現況年総農業所得額: 8,423 千円/年
⑦ 年総増加農業所得額: 132,995 千円/年
評価期間:47年
割引率:0.04
⑧ 総便益額(現在価値化): 3,665,780 千円

⑨総費用総便益比=⑧÷③= 1.43 ≧1.0
⑩総所得償還率 =④÷⑥= － ≦0.2
⑪増加所得償還率=④'÷⑦= － ≦0.4

第13章　関連する事業　　該当なし

第14章　現況・計画平面図

１．現況平面図　・・・・・・・・・・・・・ 19

２．計画平面図　・・・・・・・・・・・・・ 20

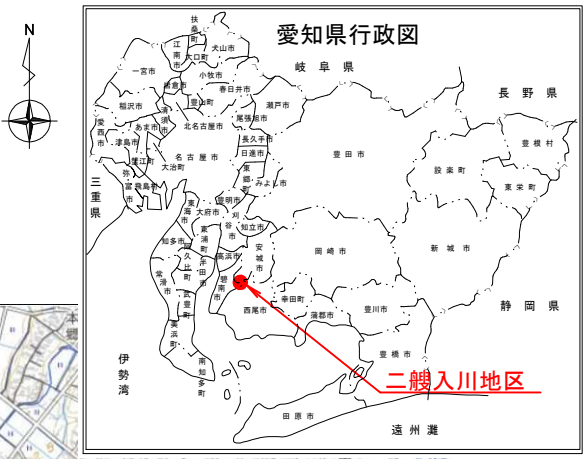
３．土地利用計画図　・・・・・・・・・・・・・ 21

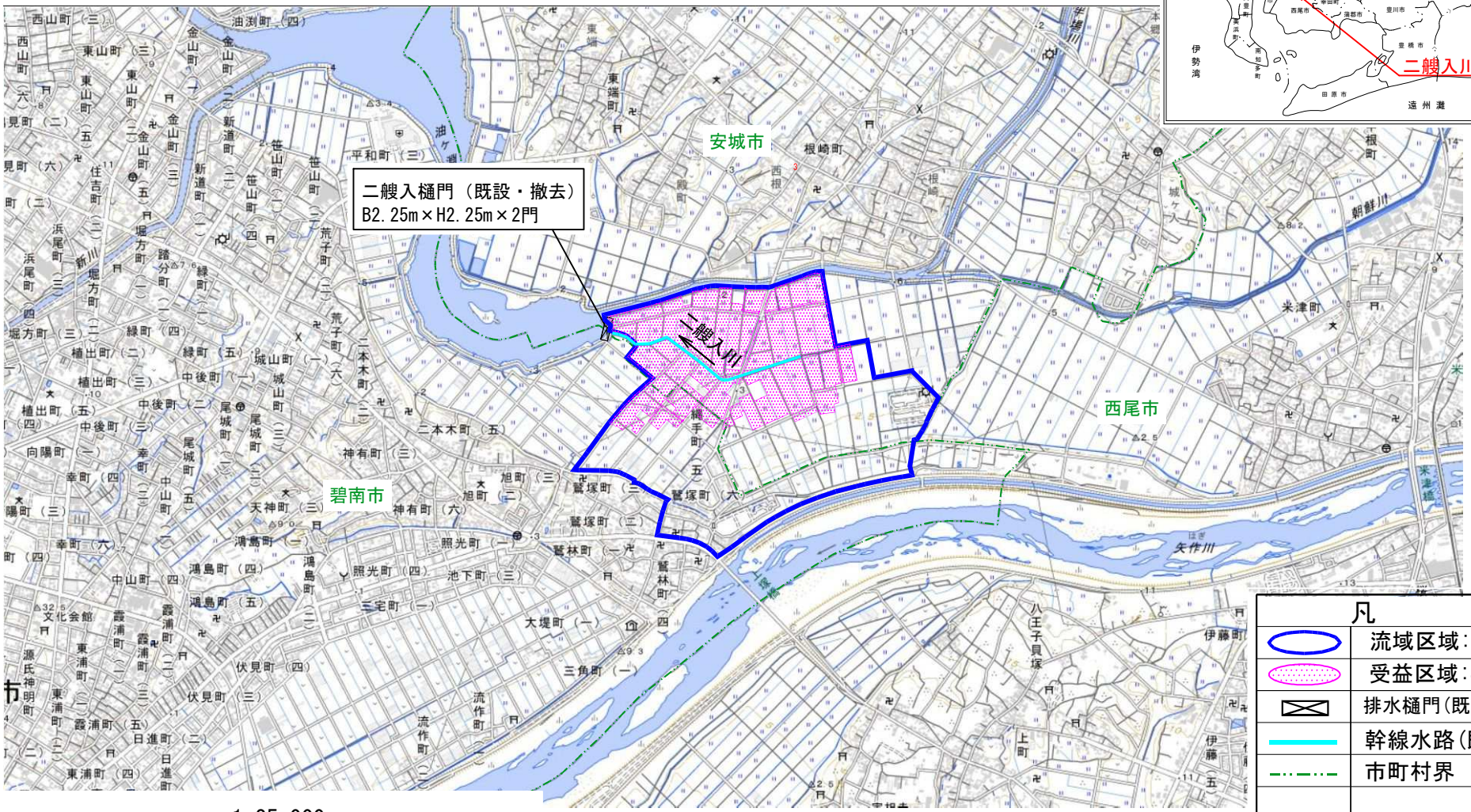
４．主要構造図　・・・・・・・・・・・・・ 22

たん水防除事業　二艘入川地区　現況平面図

所在地　：　愛知県安城市

S=1:25,000





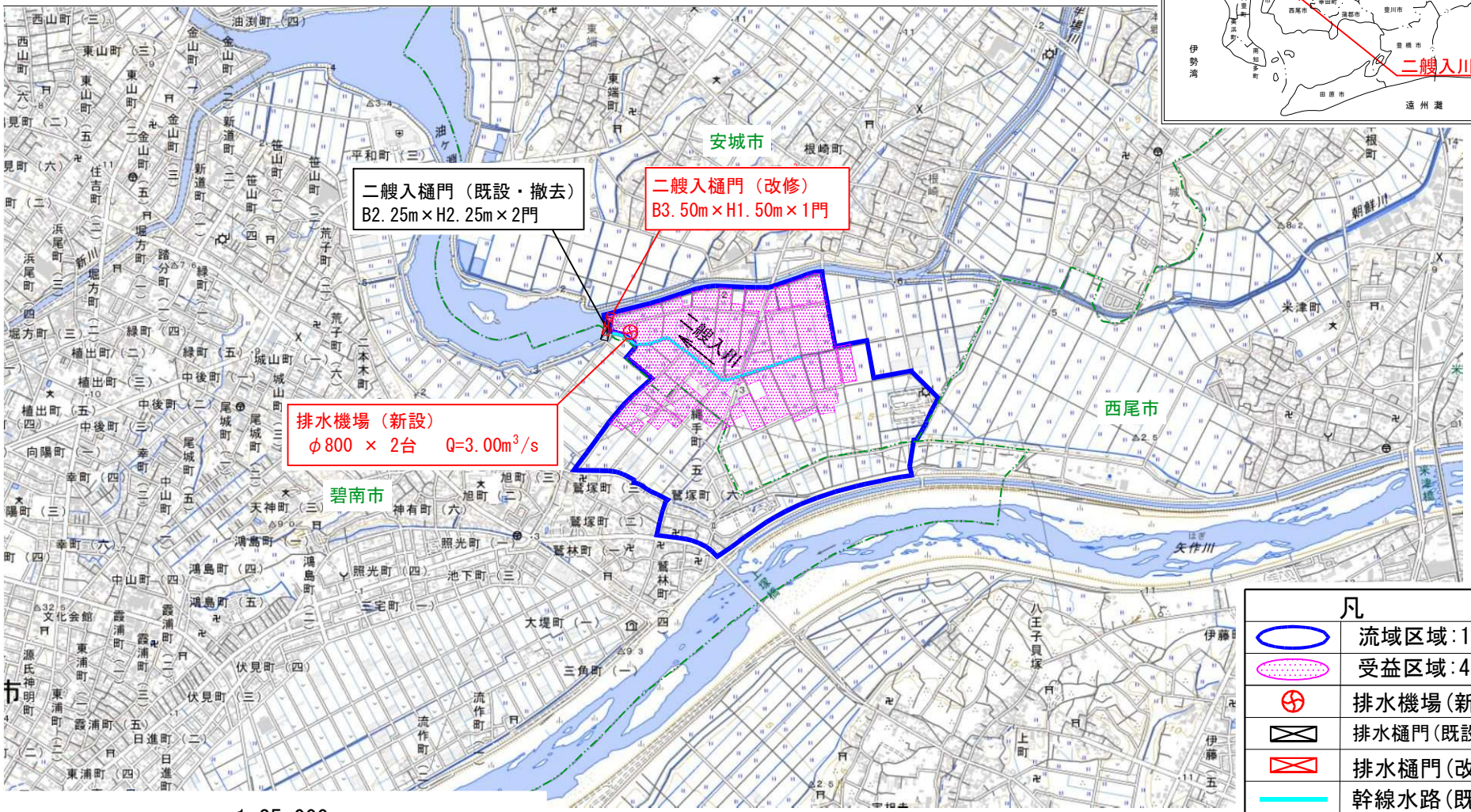
凡　例	
	流域区域：106.3ha
	受益区域：43.2ha
	排水樋門（既設・撤去）
	幹線水路（既設）
	市町村界

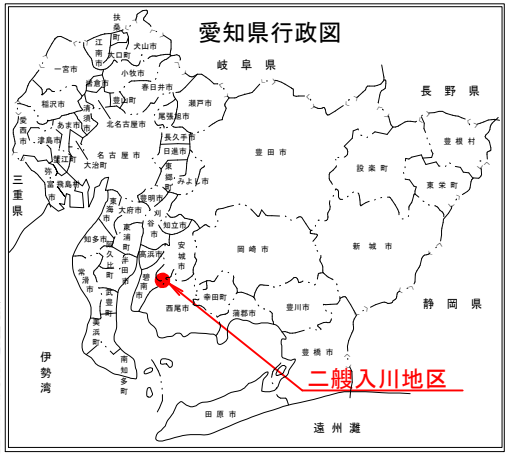
・出典：国土地理院発行2.5万分の1地形図
・電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

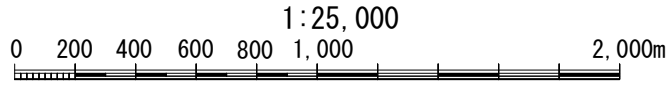
たん水防除事業　二艘入川地区　計画平面図

所在地　：　愛知県安城市

S=1:25,000



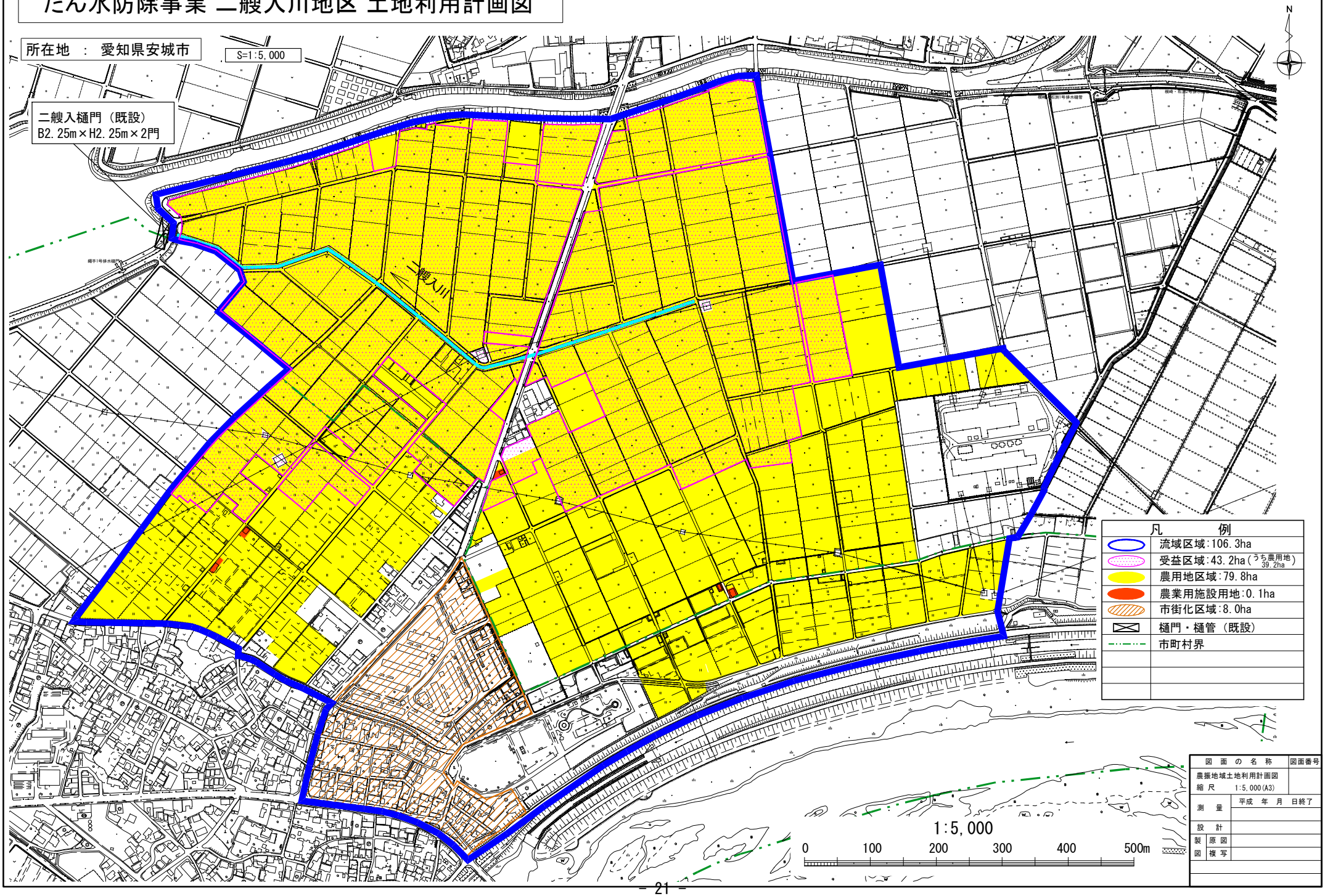




凡　例	
	流域区域：106.3ha
	受益区域：43.2ha
	排水機場（新設）
	排水樋門（既設・撤去）
	排水樋門（改修）
	幹線水路（既設）
	市町村界

・出典：国土地理院発行2.5万分の1地形図
・電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

たん水防除事業 二艘入川地区 土地利用計画図

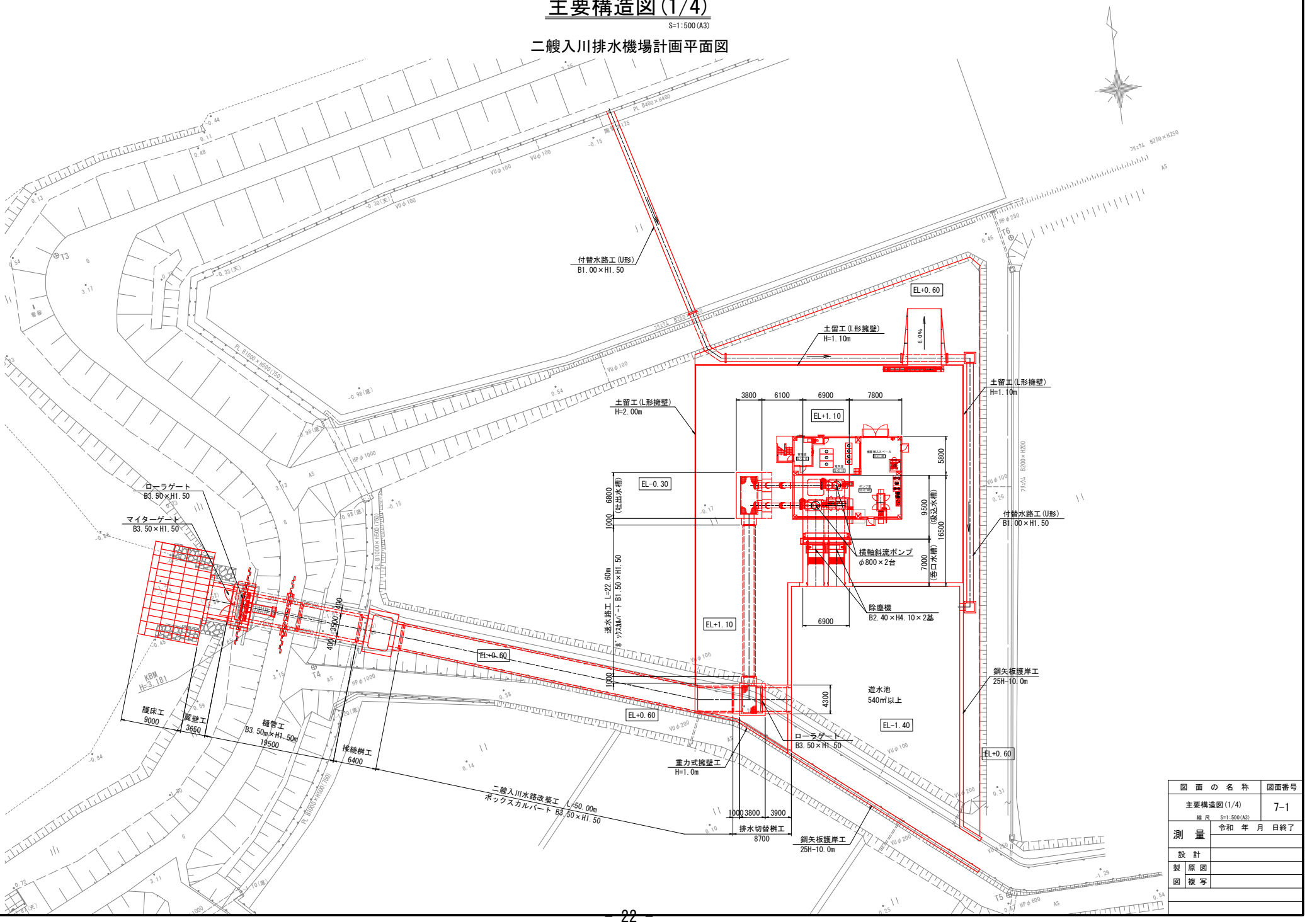


図面の名称	図面番号
農振地域土地利用計画図 縮尺 1:5,000(A3)	
測量	平成 年 月 日終了
設計	
製図 原図	
複写	

主要構造図(1/4)

S=1:500(A3)

二艘入川排水機場計画平面図



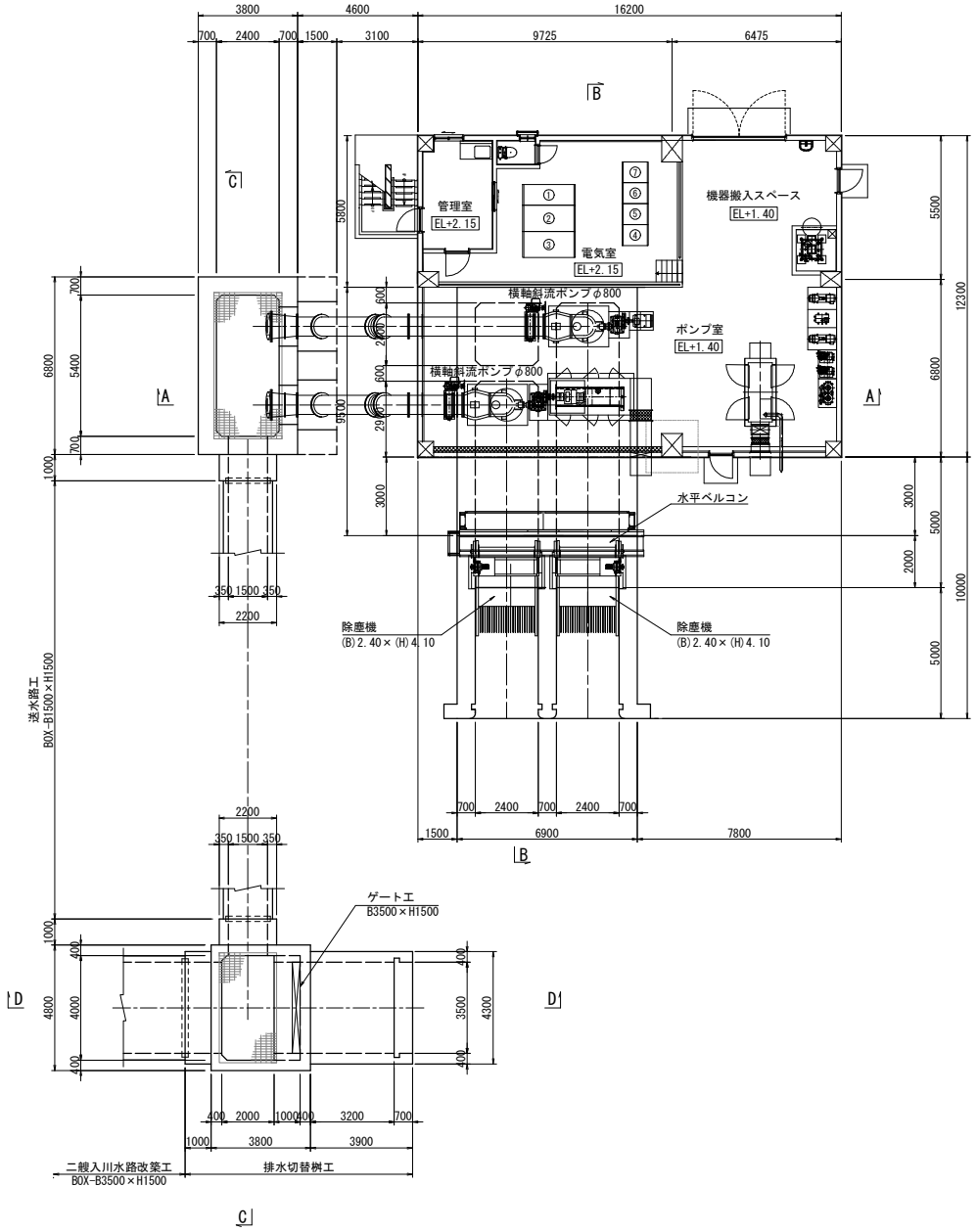
図面の名称	図面番号
主要構造図(1/4) 縮尺 S=1:500(A3)	7-1
測量	令和 年 月 日終了
設計	
製図 原図	
図 複写	

主要構造図(2/4)

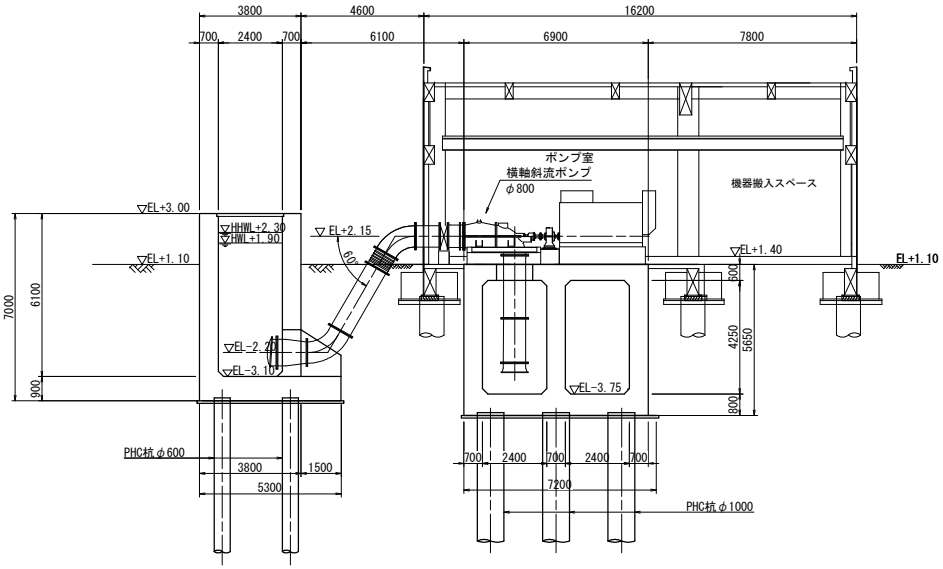
S=1:200(A3)

二艘入川排水機場計画一般図(1/2)

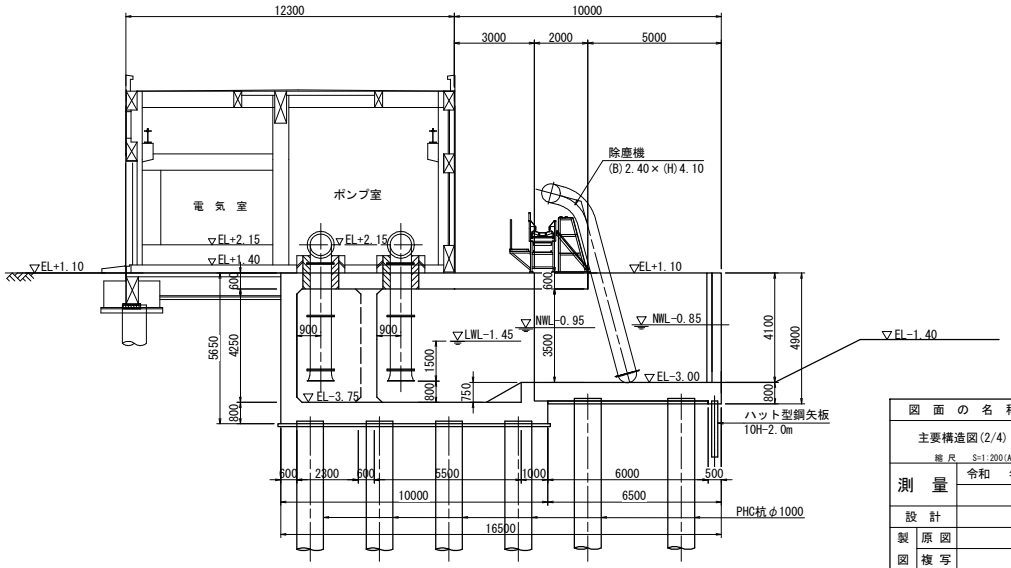
平面図



A-A 断面



B-B 断面



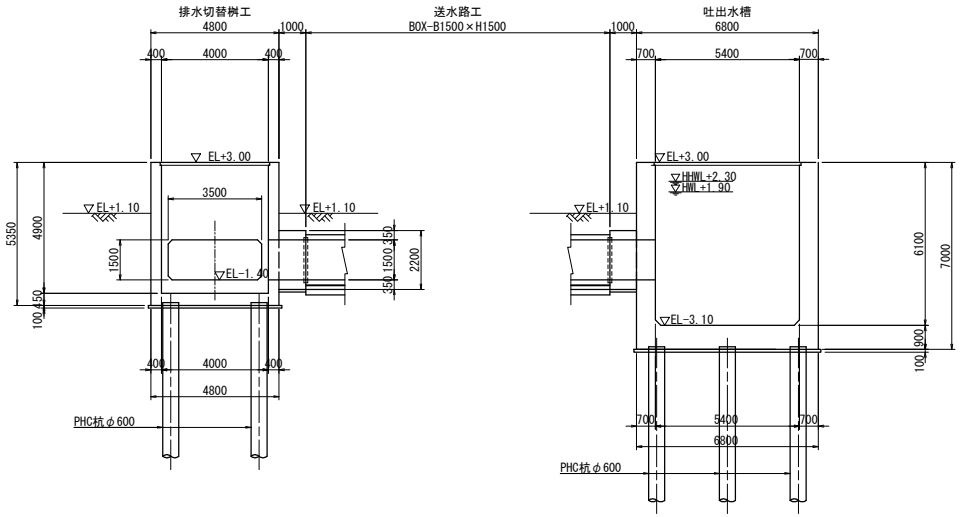
図面の名称	図面番号
主要構造図(2/4) 縮尺 S=1:200(A3)	7-2
測量	令和 年 月 日終了
設計	
製図 原図	
図 複写	

主要構造図(3/4)

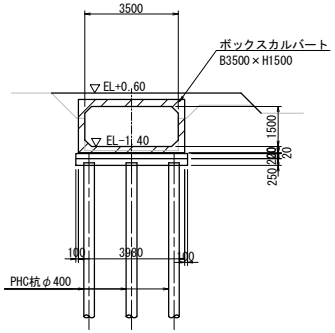
S=1:200(A3)

二艘入川排水機場計画一般図(2/2)

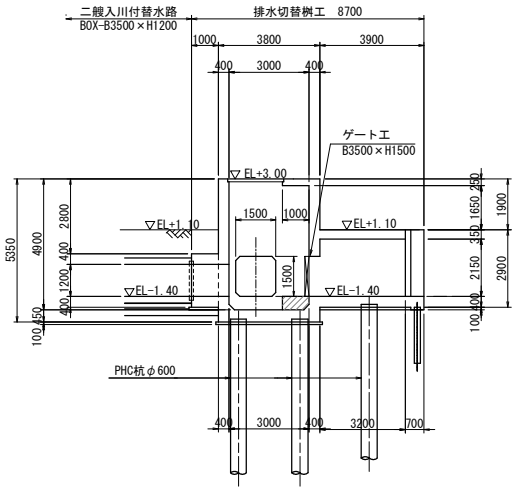
C-C 断面



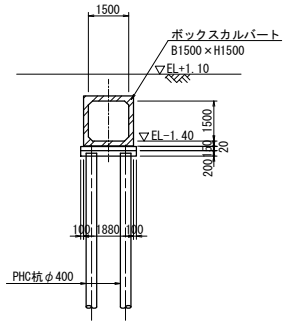
二艘入川水路改築工断面図



D-D 断面



送水路工断面図



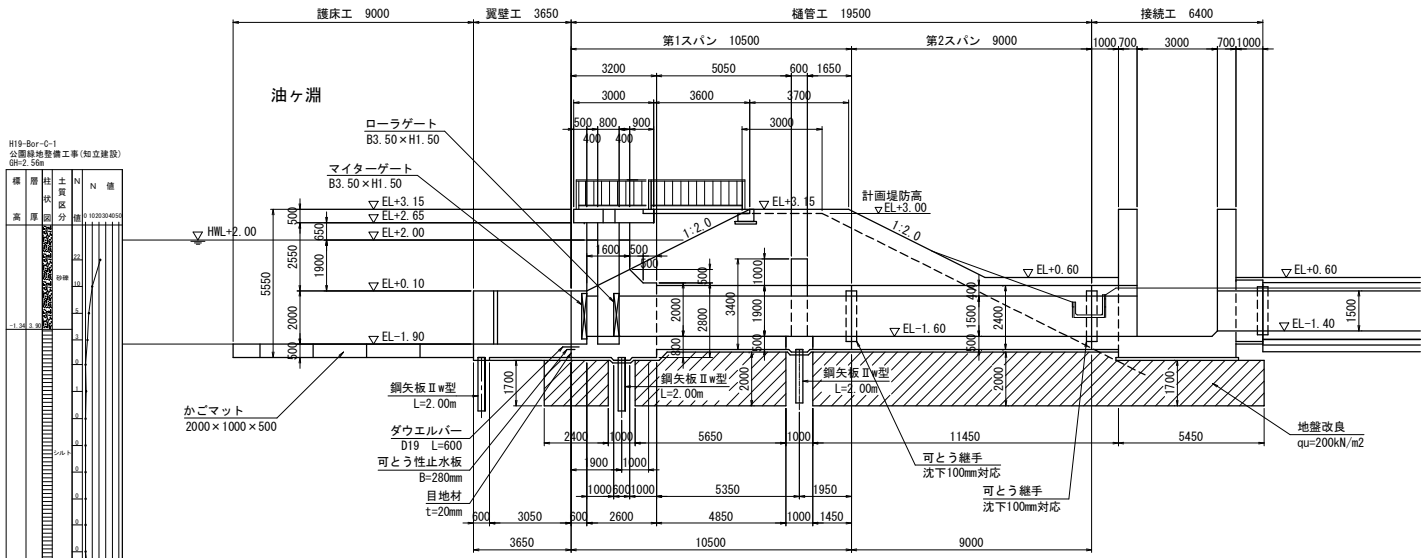
図面の名称	図面番号
主要構造図(3/4) 縮尺 S=1:200(A3)	7-3
測量	令和 年 月 日終了
設計	
製図 原図	
図 複写	

主要構造図(4/4)

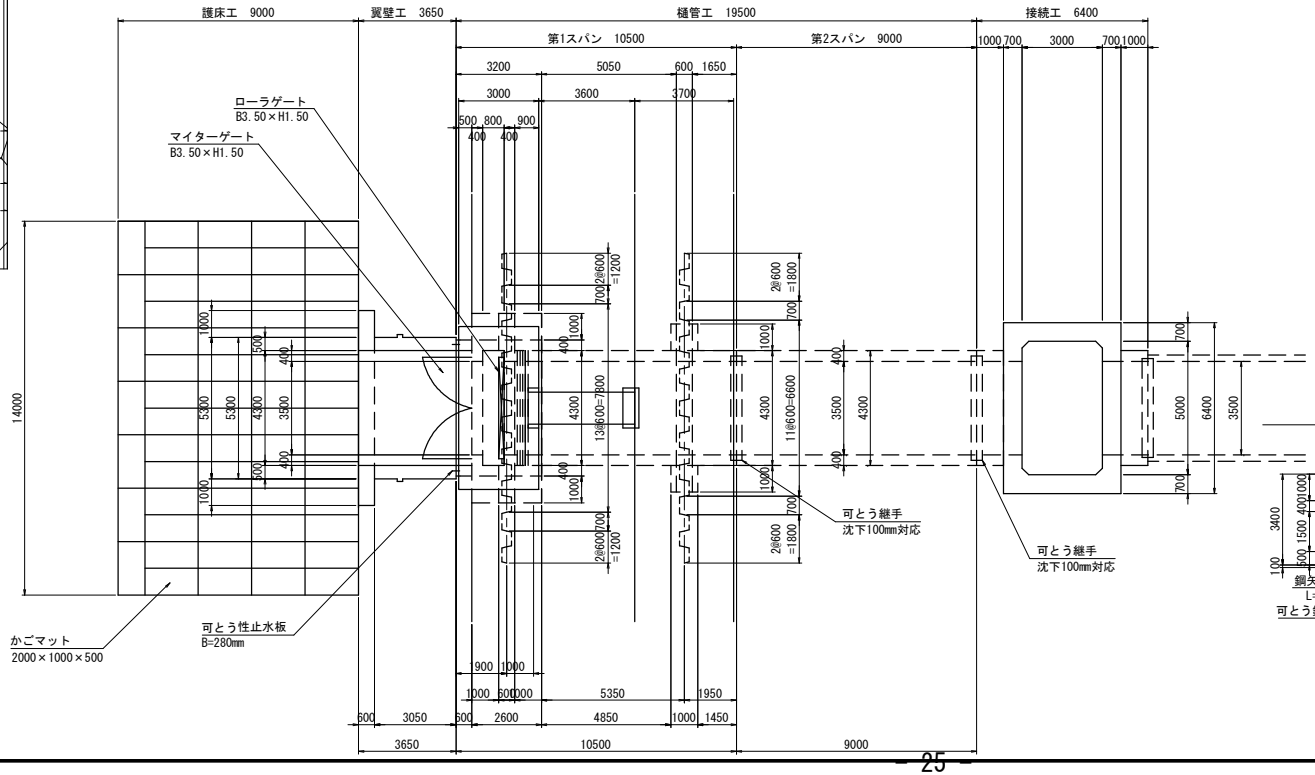
S=1:200(A3)

二艘入樋門計画一般図

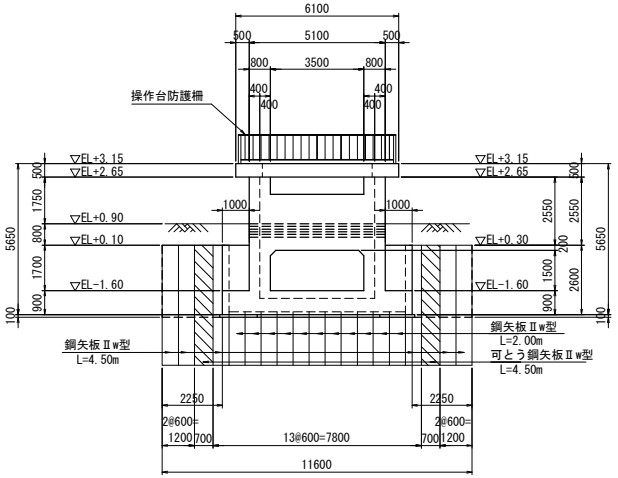
縦 断 図



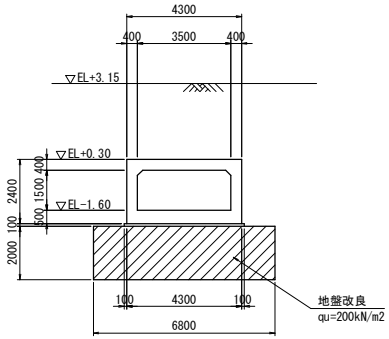
平 面 図



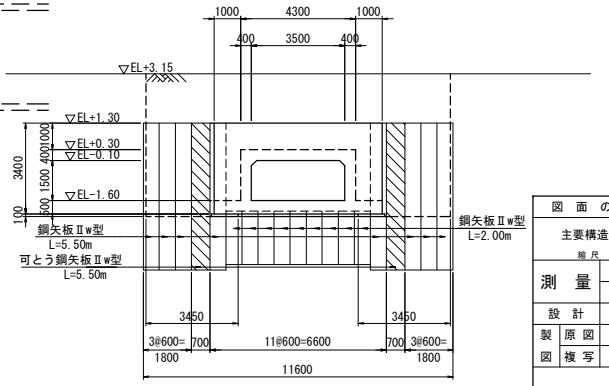
門柱部断面図



函渠部標準断面図



遮水壁部断面図



図面の名称	図面番号
主要構造図(4/4)	7-4
縮尺 S=1:200(A3)	
測量	令和 年 月 日終了
設計	
製図 原図	
図 複写	